

## 2月：「外国人留学生の入国在留手続きに関する説明会等」

日時：2008年2月13日（水）14:00～17:00

場所：東北大学青葉記念会館

参加者：65名



本会は、宮城県留学生交流推進会議主催、国際教育交流協議会(JAFSA)の共催で実施された。東北大学留学生課および各部局から47名、学外から18名、留学生実務担当者の参加があった。3時間という限られた時間であったが、下記の3つの講演が行われた。

### 1. 入国在留手続き等に関する説明

仙台入国管理局 統括審査官 榎 凡夫氏

入国管理局の業務、留学生の入国、申請取次ぎ、申請に係る注意事項、の四つに分けて説明が行われた。「ルールを守って国際化・出入国管理2007」、「出入国管理及び難民認定法施行規則」の抜粋に各種申請書が添付された資料が用意され、それらを具体的に例示しながら、各項目について初心者にも分かり易く噛み砕いて話された。三つの質問にもそれぞれ補足説明を加えながら、丁寧な回答・解説があった。

### 2. 阪神大震災に学ぶ

—宮城県沖地震に備えて—

神戸大学留学生センター瀬口郁子先生

最初に、留学生に対する支援の必要性について日本人学生と比較して強調された。次に、1995年1月17日早朝5時46分に阪神・淡路地域を襲い、6,434人の死者を出した大震災の生々しい映像が大画面に映し出され、その現場の様子が効果音と共に臨場感を持って迫ってきた。非常に高い確率で発生が予測されている宮城県沖地震域に住んでいる我々には真に迫るものがあり、他人事で

はないものとして心に刻まれた。続いて神戸大学における被害や対応について説明され、特に留学生の安否確認に大変で時間を要したことが述べられた。その確認の際には電子媒体よりも紙媒体の方が格段に役立ったということが印象的であった。その後、災害時での助け合いやボランティア活動など、共生社会についての話に移った。前の悲惨な映像と打って変わった、相互助け合いに感動する被災者の映像がしみじみとした語り口と共に現れた。引き続き、避けることのできない自然災害に「減災」という考え方を取り入れ、「防災教育」につなげることの必要性について話された。

そして講演の最後に画面に映し出された、コーラス「しあわせ運べるように」で講演は静かに締めくくられた。

1995年7月に、「心のケア」、「追悼」、「記録を残す」という目的をもって多言語で編纂された、瀬口先生監修の留学生たちの震災体験談「忘れられない・・・あの日—神戸からの声—」（64編）が作成された。その後、2005年に神戸大学の『現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム』が採択され、震災教育を目的として、その文集の縮刷版（15編）とCD-ROM版が完成した。この日の参加者にこの縮刷版が配布された。この講演は、留学生8人も聴講した。

### 3. 留学生実務者担当者への情報提供

—これからの文部科学省および東北大学の留学生施策等—

東北大学国際交流部留学生課 吉田規雄課長

「わが国の留学生制度の概要—受け入れ及び派遣—」が配布され、留学生に関する様々の情報（留学生数の推移、出身地域別・専門分野別留学生数）などについて説明があった。また、留学生への多方面にわたる支援体制の必要性が挙げられ、特に平成20年度から国費外国人留学生の渡日時の対応が異なる点について注意があった。最後に、東北大学の国際交流・留学生施策に関する情報、特に東北大学総長が掲げた「井上プラン」にもとづく、海外インターンシップ、短期研修プログラムについて紹介がなされた。



東北地区での入管説明会は二回目である。今回は、限られた時間に盛りだくさんの内容であったが、留学生実務担当者にとって有意義な、不可欠な情報収集の場となり、充実したものとなった。講師の方々、開催に関わって下さった皆さんに感謝したい。年度末に近い時期だったにも拘らず、多くの参加があった。近くで仕事をしていながらもなかなか顔を合わせる機会のない学内の、また遠くから参加頂いた学外からの、留学生に関わる仕事に携わる方々が一同に会したわけであるが、時間が限られ、意見交換の場を設けられなかったことが反省すべき点である。

報告者 中島美樹子氏（東北大学）